

ひとみ輝き 笑顔いっぱい

学校だより 第4号

東っ子

みんなの
「いいね!」を
みんなのために



最後までがんばる姿が「いいね!」 ～東金市陸上記録会&壮行会～

5月14日(火)に「陸上記録会壮行会」が行われました。ここでは、児童代表からの応援のメッセージが送られ、選手たちは、大会への気持ちより高めることができました。

そして、翌日15日(水)東金アリーナ陸上競技場での本番。

恵まれた環境及びちょっと暑すぎるコンディションの中、自己ベストをめざし、それぞれの競技に取り組みました。

ここまで、天候に恵まれず十分な練習ができない中での記録会となりましたが、一人一人が最後までがんばる姿は、とても素晴らしいものでした。この記録会の結果をもとに更に選手が絞り込まれ、東小の代表として6月5日(水)に行われる「山武郡市小学校陸上競技大会」に出場します。保護者の皆様におかれましては、引き続きの応援よろしくをお願いします。



東小学区には素敵がいっぱい

～3年 学区探検～

4月30日(火)及び5月2日(木)の両日、3年生は、社会科の学習の一環として、「学区探検」を行いました。



1日目は、田間地区の旧道。主として神社や公共施設の位置を確認し、地図と照合することができました。2日目は、求名方面。砂押県道をひたすら歩き、歩道橋や郵便局の場所を確認しながら、城西国際大学を訪問しました。大学では、係の方に校内をご案内いただき、その施設の素晴らしさを実感することができました。

稲が実る水田には雨が降っていたんだ

～5年 田植え体験～

5年生は、5月9日(木)に総合的な学習の時間の一環として、東小に隣接する水田を借用



して田植えを行いました。当日は、毎年お世話になっている田中さんに教えていただきながら取り組みました。子供たちは、小雨が降る中、深い水につかりながら、楽しみながらも慎重かつ真剣に田植えをすることができました。今後、稲の生長を見守りつつ、さらに学習を深めていきます。

5月10日は創立記念日でした

～東小学校の歴史～

この地域では、明治5年の学制により私塾が廃止となり、東金・田間・嶺南・台方の4小学校が誕生しました。当時の田間小学校は、当時はとても珍しい西洋建築だったそうです。そして、明治期の学制改革により、様々な形態を経て、明治41年に、東小学校の原点ともいべき東金尋常高等小学校が誕生しました。昭和16年には、国民学校令により国民学校と改称されましたが、戦後の教育制度改革により東金小学校となりました。そして、昭和49年4月に学区再編成により、東金小学校は、東小・鶴嶺小・城西小の三校に分離し、現在に至ります。

5月10日は、その創立記念日です。

裏面：「学校経営計画」の用語解説

「学校経営計画」の用語解説

1 自己肯定感（じここうていかん）

心理用語の「self-esteem」（セルフエスティーム）を訳した言葉で、「自尊感情」とも言います。自分に対する評価を行う際に、自分のよさを肯定的に認める感情。自分をかけがえのない存在、価値ある存在としてとられる気持ちです。自己肯定感の高い子供は、様々な課題や困難に対して、自信を持って挑戦することができます。

2 受容感（じゅようかん）

他者から認められ、肯定的に受け入れられていると感じる気持ちです。子供は、周りの大人や友達に受け入れられ認められていると、安心してやるべきことに向き合うことができます。

3 所属感（しょぞくかん）

集団の中に自分の居場所があり、その一員であると感じることのできる気持ちです。東小の職員は、子供たちの居場所づくりに努め、学校や学級への所属感を高めようと、日々努力しています。

4 自己統制感（じことうせいかん）

課題に対して、自力解決している、自力解決できそうであると感じる気持ちです。算数や理科、社会科等では、課題に対して自分なりの解決方法を考え、自ら解決していく学習、問題解決学習を行っています。

5 積極的・予防的な生徒指導

問題行動の発生を未然に防ぐことを目的に、教育相談的な手法を使って、よりよい人間関係やコミュニケーションづくりを意図的に行っていく生徒指導のことです。子供一人一人の心を耕し、様々なストレスに対する耐性を高めると共に、居心地のよい学校・学級づくりをすることで、支持的風土を築きます。

6 自ら学ぶ意欲

心理学用語の「内発的動機づけ」と同じ意味です。「受容感」「所属感」「自己統制感」が高まることで、課題解決への挑戦意欲が生み出されると考えられます。自分で課題を解決できたという実感が、「自己肯定感」を高め、次の課題への挑戦意欲へと結びつきます。やらされる勉強より、自分から進んでやる勉強の方が、学力向上を促します。

7 ユニバーサルデザイン

障がいの有無にかかわらず「より多くの人が使しやすい」という視点で考えられたデザインのことです。ユニバーサルデザインの視点で「授業」「人的環境」「物的環境」を整えることで、学習不振や二次障がい等を未然に予防することができます。